

ALSと分かって！

澤口由美子

私が、身体の異常を感じ始めたのが今年の3月頃からであります。最初は、左手の指に力が入らず「どうしたのかな」と思っていました。その段階では、特に生活には不自由を感じることはないため、ただこの異様な感じは何だろうと思っていました。そのため、病院で診察を受けることもなく過ごしていました。しかも、退職した主人と趣味である登山を楽しんでいましたが、8月下旬の登山で初めて以前とは違い登山中も歩行スピードが上がらず途中にてリタイアすることが二度ほど続き、足がスムーズに上がらないなど身体の異常を実感し、やっと診察を受けることにしました。当初、受診科が不明であったり、何処の病院が良いのか迷ったりしました。

結果、地元の神経内科を受診することになりました。しかし、その病院では結論を得ることが出来ず、札幌医大の紹介を受け11月、札幌医大に入院。約一カ月におよぶ検査の結果、告知されたのが、ALS「筋委縮性側索硬化症」でした。

受診している過程でALSではないかとの疑いを抱いていましたので、告知されても、大きな驚きはありませんでした。ただ、「何故私が」という疑問を持ちましたが、これも運命、与えられた試練と割り切るよう努めました。しかし、今後のことを考えると不安があったことには間違いありません。

現実を素直に受け入れ、この後、悔いのない人生を過ごすには、物事を前向きに考えることが大切と決意しました。

幸い二人の息子も病気のことについて、大変気遣ってくれ、ALSに関しての情報をたくさん寄せてくれます。治験の情報もその一つです。寄せられた情報により、今回治験にエントリーしました。

治験の最終結果は5月末の二次診察で出る予定となっています。これも効果的な治療薬のないALS。少しでも医療貢献に繋がるならば、すすんでお役に立ちたいと思っています。

私のALS症状は、まだ初期段階ではありますが、生活するうえで多方面に渡り支障をきたすようになって参りました。

たとえば、箸を使って食事をするが出来なくなりました。また、階段の昇り降りも不自由になり、介添えが必要な時もあります。序々に病気が進行しているのは確かです。

インターネットで様々なALSの情報を調べているとき、「日本ALS協

会」を知り、昨年12月に入会させていただきました。

入会の動機は、やはり同じ境遇の方々と絆を深め、みなさんが経験されたことの情報や病気に対する心構えなどをアドバイスいただければと思って入会させていただきました。

今年1月に行われた支会の交流会に、早速参加させていただき、食欲不振を申し上げたところ、当時服用している薬についてのアドバイスをいただきました。担当医と相談のうえ、実行したところ食欲も戻り、体調も回復しました。大変助かりました。

今後病気が進行することで主人初め家族のものに大変迷惑を掛けることになると思います。甘えるところは甘えながら出来るだけ自分で家事も行うようにし、病気と闘っていきたいと思います。

今後とも、役員のみなさま始め会員のみなさまのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

3月21日千歳支会音楽療法の会

